Ⅲ．新しい性質【霊】に従って歩む

□はじめに・・・本論に入る前に、**信者の中の３つの「霊」**について、これまでの学びを振り返る。そして、**「霊に従って歩む」の意味**について３つの霊との関係を中心に説明する。

1. これまでのスピリチュアル・ライフについての学びを通して、信者の中には、3 つの「霊」があることを学んだ。人間の「霊」、新しい性質としての「霊」、そして内住の聖霊である「霊」（頭文字は原則として大文字）、これら３つの霊である。

(1) 人間の「霊」

① 人間は物質的部分「からだ（肉、血肉）」と非物質的部分とから成る。非物資的部分には、そもそも神が造られた６つの要素、霊・魂・心・思考・意志・良心の６つがある。

② これらに加えて、７番目として、「罪の性質」。最初の人アダムが堕落したときに人の内側に入り、アダムの子孫である私たちが生まれたときから内側に持っているのが、罪の性質である。聖書は、罪の性質を、「罪」、「肉」、「古い人」などの用語で表現している。よって、人の内側には、神が造られた６つの要素と罪の性質、合計７つがある。

③ 聖書で「霊」というとき、６つの要素のうちの一つである、人間の「霊」を指す箇所は、たとえば、次のとおり。

- Ⅱコリ 7：1　*愛する者たち。このような約束を与えられているのですから、肉と霊の一切の汚れから自分をきよめ、神を恐れつつ聖さを全うしようではありませんか。*　（肉＝からだ、霊＝人間の「霊」）
- Ⅰテサ 5：23　*平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。*

④ 霊、たましい、心といった要素は、人の非物質的部分を代表させて用いられることも多い。③の聖書箇所もそうである。Ⅱコリ 7：1 では「霊」が、Ⅰテサ 5：23 では「霊、たましい」が、非物質的部分の 6 要素を代表している。
（霊、たましい＝6 要素の中から２つを代表させている）

(2) 信者に与えられた、新しい性質としての「霊」

① 人は生まれたときから、その内側に罪の性質を持っている。罪の性質は、人の内側の６つの要素を支配している。つまり、罪の性質が主人であり、人は

主人に仕える奴隷である。この状態を、聖書は「罪の奴隷」（ロマ 6：6）と表現する。生まれながらの人は、罪の性質に従ってでしか、何もできない。

② 人は神を信じて救われる。救いは神にのみある。自分の行いによって神の前に義人と認められる人はだれもいない。なぜなら、人は罪の奴隷だからである。人は、神の恵みによってのみ救われ、信仰を通してその救いを受け取るのである。

③ では、人が信じて救われたときに、その人の内側で何が起きるのか。それは三つある。

- 第一に、**罪の性質から解放された**・・・人の内側の 6 つの要素を支配していた罪の性質が、6 つの要素から引き離される。罪の性質はまだ、信者の中に残っているが、もはや人を支配する正当な権限はない。
- 第二に、**霊が再生した**・・・人の内側の 6 つの要素のうち、罪の性質によってその機能が特に損なわれていたのは、霊である。霊は神との関係、天との関係において機能する要素だからである。人が信仰を通して救われる前の状態を、聖書が「罪の中に死んでいた」（エペ 2：1）と表現するのは、人の霊が本来の機能を失っていたこと、すなわち霊的に死んでいたことを指す。その霊的死の状態から、霊が再び生かされる。これが、再生である。
- 第三に、**新しい性質【霊】を受けた**・・・聖霊によって信者の内側に新しい性質が与えられる。この新しい性質を、聖書は、「霊」、「新しい人」などの用語をあてる。信者と不信者との決定的な違いは、新しい性質【霊】を持っているかどうか、である。新しい性質を持っている信者は、新しい性質に従うか、それとも古い罪の性質に従うか、を選択することができる。それに対して、不信者は、罪の性質に従う他ない。新しい性質を持っていないからである。

④ 新しい性質【霊】に関連する聖書箇所

- ヨハネ 3：6　*肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は* **霊** *です。*
- Ⅰヨハ 3：9　*神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。*

  →新しい性質【霊】は、罪を犯すことができない。汚れておらず、完全に聖い。

(3) 内住の聖霊である「霊」（頭文字は原則大文字、日本語聖書では「御霊」と表記）

① 旧約時代には、聖霊は原則として信者の上にとどまった。神の霊が信者の中に入ったのは、稀なケースであった。これに対し、新約時代になると、聖霊は信者の中に住んでくださる。

② 聖霊が信者に内住する目的は、信者の助け主となるためである。具体的には、信者に神のことばを理解させ、信者を導き、神の律法を守る力を与える。

③ 聖霊が住まう場所は、信者の『新しい性質【霊】』の中である。なぜなら、信者の内側で、完全に汚れていない聖なる部分は、そこだけだからである。

④ 聖書箇所

- ロマ 8：16　*御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。*
- Ⅰヨハ 4：13　*神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神のうちにとどまり、神も私たちのうちにとどまっておられることが分かります。*
- Ⅰヨハ 2：27　*しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっているので、だれかに教えてもらう必要はありません。その注ぎの油が、すべてについてあなたがたに教えてくれます。それは真理であって偽りではありませんから、あなたがたは教えられたとおり、御子のうちにとどまりなさい。*

2. 「霊に従って歩む」の意味・・・聖書の中で、「霊に従って歩む」というとき、その「霊」は、新しい性質としての霊、再生した信者の霊、内住の聖霊としての霊の 3 つすべてである。3 つをバラバラにして区別しているわけではない。ただし、聖書箇所によって、3 つのうちのどれかを強調していることがある。

(1) ロマ 8：4～9・・・ 肉＝罪の性質　対　霊＝新しい性質　→　再生した霊

① 「霊に従って**歩む**」（8：4）という表現は、からだを動かすことと関係する。信者は、自分のからだ、手足を、罪の性質やからだの情欲に従わせるのではなく、新しい性質に従わせるよう命じられている。

② このとき、信者の内側の 6 つの要素の中で、特に主導権を握るべきは、再生した霊である。よって、霊に従って歩むとは、再生した霊に従って歩む、とも言える。

(2) ロマ 8：10　*キリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに*

死んでいても、霊は義のゆえに生きています。→　波線部は別訳。この箇所の「霊」は、からだとの対比なので、新しい性質としての霊ではなく、信者の再生した霊を強調している（ローマ人への手紙コンメンタール、P.152）

(3) ロマ 8：13　*もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬことになります。もし（御）霊によってからだの行いを殺すなら、あなたがたは生きます。*

① 信者が、もし罪の性質【肉】に従って生きる（現在形）なら→もし習慣的に罪を犯し続けるなら、**死ぬ**＝神の訓練としての肉体の死を受ける。ただし、霊的な救いは失われない。

② もし新しい性質【霊】に従って、からだの行いを殺すなら、そのような信者は、神の訓練としての肉体の死を受けるようなことはない。

③ 「からだの行いを殺す」とは、どういう意味か？　信者のからだは、信者になる前までは、罪の性質の道具となっていた。罪の性質に従いやすく、情欲に走りやすい。それを止めるというのが、「からだの行いを殺す」という意味である。しかし、現実には信者は、罪の性質と新しい性質の二つの性質が自分の中で衝突し、せめぎ合う中で、苦悩する。

④ 霊に従って歩もうとするなら、信者は必ずこのような苦悩に陥る。信者として神の命令に従って歩みたいのだが、願うようにはできないという状態である。しかし、この経験が必要である。これを経験すると、次の段階、自分で歩むという段階から、聖霊に導かれるという段階に進む。ロマ 8：14　*神の御霊に導かれる人はみな、神のこどもです。*

→この段階に来たときに、まず導かれるのは、すでに自分は神の子という地位にあるということ。ここから、信者は父なる神に向かい、「父よ」と呼んで祈る。そうすると、祈りの中で、今の苦悩、今の苦難は、やがてキリストと栄光をともに受けるためであると、わかる。そこからまた、歩み出すことができ、御霊も助けてくださる（参照　ロマ 8：15～27）。

(4) ガラ 5：16～17・・・ 肉＝罪の性質　対　霊＝内住の聖霊

① ガラ 5：16～17　*私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。*

② 「御霊によって歩みなさい」・・・ここでは、3 つの霊のうち「聖霊」を強調し、「御霊によって歩む」と表現している。聖霊が信者に新しい性質【霊】を与え、信者の霊を再生してくださったからである。さらに、新約時代におい

ては聖霊ご自身が信者の中に住んでくださり、信者に力を与え、導いてくださるからである。

③　「あなたがたは願っていることができなくなります」・・・これは、内住の聖霊が罪の性質に阻まれて身動きできなくなる、ということではない。聖霊は神である。神が罪の性質に阻まれることはない。信者の内側にある 2 つの性質、罪の性質と新しい性質の衝突の中で、あるいは罪の性質と信者の再生した霊との衝突の中で、互いにせめぎ合い、信者のからだが身動きできないという状態になることを指している。

④　しかし、この状態になることが必要である。そこを経てはじめて、次の段階、御霊に導かれる段階に進む。ガラ 5：18　「***御霊によって導かれているなら***」

⑤　このようにして、信者が、まず新しい性質【霊】に従うことを選び取り、次に聖霊の導きにゆだねていく。このときに結ぶ実が、ガラ 5：22～23 の「***御霊の実***」である。

3.　まとめ・・・神は、私たちを救い、聖なるものとして完成してくださるために、私たちの内側に、三重の備えを与えてくださった。①新しい性質【霊】を与え、②私たちの霊を再生させ、そして、③聖霊が住んでくださり、私たちを導いてくださる。そのゴールは、神が私たちを御子のかたちと同じ姿にすること、神のご性質にあずかる者とすることである。

ロマ 8：29　***神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。***

Ⅱペテ 1：3～4　***私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束は私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。***

□アウトライン

1.　聖書箇所　２つ
2.　【霊】に従って歩むことの意味　３つ
3.　【霊】に従って歩む方法：信仰による
4.　【霊】に従って歩むときの具体的な歩み方・・・「歩む」に関係する聖書箇所から

1.　聖書箇所　２つ

(1) ガラ 5：16～17　*私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。*

→この箇所についての説明は、47～48 ページを参照。

御霊によって歩むとは、信者の内側にある 3 つの霊、「新しい性質【霊】」、「信者の再生した霊」、そして「内住の聖霊」の中で、とくに聖霊を強調している表現である。

(2) エペ 5：7～8　*ですから、彼らの仲間になってはいけません。あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。*

→　この箇所では、新しい性質【霊】に従って歩むことを、「光の子どもとして歩みなさい」と表現している。聖書の中には、このような表現がいくつかあり、具体的な歩み方を教えている。詳しくは後述、51～52 ページ。

2.　【霊】に従って歩むことの意味　３つ

(1) 一言で言えば、メシアの律法を守り、神のみこころに従おうとすること

(2) もう少し詳しく言うと、次の３つのことがポイントとなる

①　神のことばによって命じられている、日常的な義務をきちんと果たすこと

②　その際、実際に体を動かすこと。「歩む」というのは、私たちの体に関係した表現である。歩くためには、足を動かす。ただ動かすのではなく、力もバランスも必要。鍛えたり、練習したりすることも必要。神のことばに従い具体的な日常的な義務を果たそうとするなら、自分の体を実際に動かし用いて、神の命令に従っていくのである。ロマ 12：1「*ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。*」

③　これは学習プロセスでもある。「歩む」ことを通して学ぶのである。たとえば、幼児が立って歩き初めたら、最初はバランスをとれずに倒れる。倒れることも学習プロセスである。同じように、信者は倒れても、また起き上がりさえすれば、必ずまた歩くことができる。倒れてもまた起き上がり、歩めばよい。それが、スピリチュアル・ライフにおける成長の歩みである。

3.　【霊】に従って歩む方法：信仰による

(1)　Ⅱコリ 5：7　*私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます。*

①　信者が新しい性質【霊】、あるいは再生した自分の【霊】に従って歩むというとき、その基盤は信仰である。

- 不信者の日々の歩みには、信仰はない。見えるものによってしか歩めない。信者と不信者の違いは、信仰があるかないか、である。
- 信者は、神にのみ救いがあると信じて救いを受け取った。その信仰の内容は、イエス・キリストが私たちの罪のために死なれたこと、墓に葬られたこと、三日目によみがえられたことである。信仰を通して救われたのである。

②　そして、信じたときに、聖霊が私たち信者に新しい性質【霊】を与えてくださり、私たちの霊を再生してくださった。私たちはこのことを信じる。

③　そして、新しい性質【霊】に従って歩もうとするとき、聖霊が助けてくださり、導いてくださり、必ず私たちに神の命令を守ることができるようにしてくださる。私たちはこの神の約束を信じる。この信仰を基盤として、日々の生活を歩むのである。

④　ロマ 1：17　*福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。*

- 信仰は救いを受け取るためだけではない。聖化、そして究極的に栄化を受けるのも、信者の行いによらず、信仰による。聖化とは、「キリストにある」という特別な地位に立つ者とされた信者が、それにふさわしく、信者の内側が変えられて、キリストに似た者に造り変えられること。栄化とは聖化の完成であり、栄光の体を受けることである。
- よって、聖化のプロセスである「新しい性質【霊】に従って歩む」、このことの基盤は、信仰である。信者は【霊】に従って歩むことができる、と神が約束しておられる。私たちは、それを信じて歩むのである。

(2)　エペ 4：1　*さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。*

①　「召されたその召しにふさわしく」とは、「キリストにある」という地位にふさわしく、信者の内側が変えられて、キリストに似た者に造り変えられることを指す。これは、聖化である。

②　聖化は神の働きであるから、それを受け取る方法は、信仰である。

4.　【霊】に従って歩むときの具体的な歩み方・・・「歩む」に関係する聖書箇所から

(1) ロマ 6：4　*私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。*

→　「新しいいのち」とは、新しい性質【霊】を指す。【霊】に従って歩むとは、キリストが父なる神の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも新しいいのちにあって歩むのである。罪の性質、サタンや悪霊、世、これら 3 つの敵が差し出してくる生き方を退け、神の基準に従っていく歩みである。

(2) ロマ 13：13　*遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。*

→「生き方をしよう」と訳されている箇所は、直訳すると「歩こう」。「品位のある」とは、倫理的、道徳的に正しく、という意味。【霊】に従って歩むとは、倫理的に正しく歩むことである。

(3) エペ 2：10　*実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。*

→【霊】に従って歩むとは、良い行いをすることである。「良い行いをあらかじめ備えてくださいました」とは、信者の人間的な力ではなく、神の力によって良い行いはできる、ということである。

(4) エペ 4：1　*さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。*

→「召されたその召しにふさわしく」とは、聖化の歩みである。聖化は神のわざであり、信仰によって受け取るものである。【霊】に従って歩むとは、信仰を基盤とする聖化の歩みである。

(5) エペ 5：1～3　*ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、淫らな行いも、どんな汚れも、また貪りも、口にすることさえしてはいけません。*

→【霊】に従って歩むとは、愛の中で歩むことである。

(6) エペ 5：7～8　*ですから、彼らの仲間になってはいけません。あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。*
→【霊】に従って歩むとは、光の子として歩むことである。光の子として歩むことの対極にあるのは、エペ 5：4～7 である。「彼らの仲間になってはいけません」とは、そのようなことを自分がすることはもちろん、そのようなことをする人たちの中に入って行動を共にしないように、という警告である。

(7) エペ 5：15～16　*ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、機会を十分に活かしなさい。悪い時代だからです。*
→【霊】に従って歩むとは、慎重に歩むことである。

(8) その他の箇所
① コロ 1：10　主にふさわしく歩む
② コロ 2：6　キリストにあって歩む
③ コロ 4：5　知恵をもって行動する（歩む）
④ Ⅰテサ 4：1　神に喜ばれるように歩む
⑤ Ⅰヨハ 1：7　光の中を歩む
⑥ Ⅲヨハ 3～4　真理のうちに歩む